

平成26年度JRA畜産振興事業 助成金支出明細書

1. 事業の名称		草牛の飼養管理技術体系確立調査研究事業	
2. 事業の目的及び内容			
(1) 目的		<p>近年、濃厚飼料価格は、米国での記録的な干ばつの影響等で高騰しており、輸入飼料に依存した肉用牛生産から、地域の飼料資源を活用した生産体制への転換を推進することが喫緊の課題となっている。</p> <p>肉用牛は肥育出荷までに、約5トンの穀物飼料を食べ、大部分を輸入に依存している慣行飼養の子牛は、濃厚飼料多給で過肥気味となり、肥育段階で余分についての脂肪を削ぐための飼直しを行う等、資源・お金・時間の無駄を生じている。</p> <p>一方、放牧等粗飼料多給で生産した子牛(以下「草牛」という。)は、胃袋が丈夫で粗飼料の食い込みが良く代償性発育効果が期待されること及び病気の発生が少ない等の特長を有している。しかしながら、これらの特長を活かした飼養管理技術が確立されていない状況にある。</p> <p>このため、草牛の優れた特長を最大限に活かし、放牧等粗飼料生産基盤に立脚した飼養体系への転換と生産コスト削減に向けた取組を一層推進するため、子牛段階での出荷月齢の早期化を図るための飼養管理体系、肥育段階での肥育前期の粗飼料多給や代償性発育効果発現による肥育期間短縮を図るための肥育技術体系など、一貫した飼養管理技術体系の実証・確立を図るものとする。</p> <p>また、その成果を研修会の開催等を通じて普及啓発し、もって真に放牧等粗飼料生産基盤に立脚した飼養管理体系への転換の推進に資する。</p>	
(2) 具体的な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業全体の効率的かつ効果的な推進を図るための実施方針や具体的な実施方法の検討、達成目標の検証等を行う検討委員会・部会を開催する。</li> <li>・ 草子牛の出荷月齢の早期化と斉一性のある草牛の生産を図るため、草子牛モデル農家の飼料給与モデル設計の検討、飼養管理技術の見直し・改善方策の検討及び発育データ収集・分析を行う。</li> <li>・ 草牛の特長を活かした肥育期間短縮と肥育コストの低減を図るため、モデル肥育農家での肥育牛の実証・展示、増体成績及び生産費等の肥育データ収集・分析を行う。</li> <li>・ 草牛の生産振興や評価向上を図るため、増体成績及び飼料利用性のデータを収集・分析、草牛の枝肉成績や血統情報により、肥育期間短縮が産肉能力を及ぼす影響・効果分析を行う。</li> <li>・ 草牛の普及啓発を図るため、マニュアル編集委員会及び普及用DVD作成企画検討会を開催する。</li> </ul>	
3. 法人の名称		(一社)全国肉用牛振興基金協会	
4. 助成金の実績額		16,526 千円(A+B)	
5. 助成金における推進事務費			
(1) 技術指導事務費(人件費)		4,740 千円(①)	
(2) 事務諸費		73 千円(②)	
(3) その他推進事務費			
内 容		金 額	
賃金		157 千円	
旅費		1,225 千円	
計		1,382 千円(③)	
合 計		6,195 千円(A:①~③)	
6. 外部への支出			
支出内容		支 出 先	
検討委員会・部会・現地検討会等		1,772 千円	
会場借料	施設賃貸会社	13 千円	
委員旅費	委員	1,490 千円	
委員謝金	委員	269 千円	
草牛育成・肥育データ収集・分析等		7,376 千円	
別飼い設備改善用資材提供費	資材販売業者	1,473 千円	
草牛育成・肥育データ収集費	JA	203 千円	
草牛育成・肥育データ分析・整理費	委員、肉牛生産組合	190 千円	
肥育期間短縮技術実証展示費	JA	2,611 千円	
モデル農家調査協力費	JA、モデル農家	701 千円	
産肉能力分析等収集・分析・整理費	農協連	1,888 千円	
調査旅費	農協連	240 千円	
事務諸費(消耗品費・通信運搬費)	郵送業者等	70 千円	
普及啓発用DVD作成等		1,184 千円	
会場借料	施設賃貸会社	13 千円	
委員旅費	委員	145 千円	
委員謝金	委員	18 千円	
資料作成費	映像作成業者	1,008 千円	
合 計		10,331 千円(B)	

平成26年度JRA畜産振興事業 助成金支出明細書

1. 事業の名称		肉用牛の多様な遺伝的経済形質活用調査研究事業	
2. 事業の目的及び内容			
(1) 目的		<p>我が国の牛肉生産について、国は従来の脂肪交雑重視から、消費者が食べて美味しいと感じる「美味しさ」評価に着目した肉用牛改良と飼養管理を行い、多様な消費者ニーズに応えた牛肉生産を推進することが重要としている。</p> <p>これに対応し当協会は、平成25年度まで実施したJRA畜産振興事業(多様な牛肉生産体制確立支援調査研究事業)において、牛肉の美味しさに影響を与える要素である「食感(脂質、軟らかさ等)」、「うま味(アミノ酸等)」、「香り(香気成分等)」のうち、牛肉の美味しさに深く関わる脂肪の質を決定するオレイン酸含有量に着目して指標化した全国統一検量線を確立したところである。</p> <p>更に、国は、牛肉の美味しさ要素を明らかにする新たなアプローチとして、牛肉の成熟度を示す「軟らかさ」に関するシマリについても、美味しさ評価の見える化を推進し、将来的に利用可能な指標化を図ることが課題であるとともに、和牛系統の再構築についても、繁殖・哺乳能力等で特長を有する系統の遺伝的能力分析・評価を通じ、多様化する消費者ニーズに応えた牛肉生産を推進することが重要としている。</p> <p>このため、牛肉の成熟度を示す「軟らかさ」の指標化手法の確立(評価基準の標準化)を図るための検討を行うとともに、経済形質に優れた特長を有する系統集団の系統再構築に向けた分析・評価を行い、我が国畜産の振興に資する。</p>	
(2) 具体的な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業全体の効率的かつ効果的な推進を図るための実施方針や具体的な実施方法の検討、達成目標の検証・自己評価等を行う検討委員会・部会を開催する。</li> <li>牛肉の成熟度を示す「軟らかさ」指標化のための光センサーでの測定、サンプル収集・理化学分析を行う。</li> <li>特長ある系統集団の特長類型別の集団化(グループ化)等による遺伝的多様性の確保と安定した牛肉生産に向けた系統再構築のため、SNPを活用した遺伝的情報分析を行う。</li> <li>併せて、牛肉の脂肪の質(オレイン酸等)を指標化した基準により、関係団体等と共催し、オレイン酸和牛ブランドの普及啓発のための取組(セミナー等)を行うとともに、オレイン酸の統一検量線の補正や精度確認を行う。</li> </ul>	
3. 法人の名称		(一社)全国肉用牛振興基金協会	
4. 助成金の実績額		15,390 千円(A+B)	
5. 助成金における推進事務費			
(1) 技術指導事務費(人件費)		5,396 千円(①)	
(2) 事務諸費		178 千円(②)	
(3) その他推進事務費			
内 容		金 額	
賃金		172 千円	
旅費		695 千円	
計		867 千円(③)	
合 計		6,441 千円(A:①~③)	
6. 外部への支出			
支出内容		支出先	
検討委員会・部会・現地検討会等		435 千円	
会場借料		施設賃貸会社等	
委員旅費		委員等	
委員謝金		委員	
測定データ収集・分析等		8,244 千円	
調査等旅費		格付団体、登録団体	
サンプル採取・収集費・データ整理費		格付団体、登録団体、収集備品販売業者	
データ入力費		登録団体	
サンプル・データ分析費		遺伝子分析研究所等	
分析結果取りまとめ費		登録団体等	
消耗品費		分析用薬品・器具機材販売会社等	
通信運搬費(分析試料運搬費)		郵送業者	
普及啓発資材等		270 千円	
パンフレット作成費		印刷業者	
合 計		8,949 千円(B)	